

研究結果報告書

研究結果

今度の研究では、劇評家辻聴花（1868-1931）が1912-1923年の間に、北京『順天時報』に発表した劇評を取り上げた。1910年以降、京劇が熟成していくとともに、新しい情報媒体である新聞における劇評も盛んになった。そして、1910年から1930年代にかけて、新聞に掲載された劇評の数は、頂点に達した。

これらの劇評は、内容が豊富であるだけでなく、その表現形式も多様である。従って、演劇発展史の視点から見ると、この時期にこれほどたくさんの劇評が出たことは、極めて重要な文化現象の一つであると言えるだろう。辻聴花は、早期における最も重要な新聞劇評家の一人であり、生涯に二千通弱の劇評を書き上げた。本研究では、まず辻聴花の膨大な劇評を分析し、彼が新聞を通し、いかにして過去の劇評と異なる近代的な劇評のかたちを確立したかについて考察した。そして、辻聴花の劇評が、当時の劇評家に与えた刺激と北京の劇壇に及ぼした影響について明らかにした。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表（題名・発表者名・会議名・日時・場所等）

1. 「二十世紀初期日本中国戯劇研究者的中国戯劇史観之考察」
 - ・ 吳宛怡
 - ・ 『北京大学博士生及青年学者學術研討会《活在“現在”的“傳統”》』
 - ・ 2010/08/26・北京大学中文系會議廳
2. 「近代劇評的發生 辻聴花與《順天時報》」
 - ・ 吳宛怡
 - ・ 『国科会人文学研究中心2011青年学者論壇學術研討会』
 - ・ 2011/05/19・行政院国家科学委员会2樓研討室

論文（題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等）

- 「近代劇評的發生 辻聴花與《順天時報》」
- ・ 吳宛怡
 - ・ 『漢学研究』(審査中)

書籍（題名・著者名・出版社・発行時期等）